

古代東海道（相模～武蔵～下総～常陸）★全体の感想

2008年1月27日から2010年1月11日にかけて合計20回の活動（うち番外編4回）を行い、45名の参加で、無事、相模国府（平塚）から武蔵国府（府中）、下総国府（市川）を経て、常陸国府（石岡）へ到達しました。この間の活動に参加されたみなさんの感想をまとめました。

●古代東海道（平塚～府中～市川～石岡）全体を歩いての感想

○古代官道は、現在に残っていないことも多いが、“だいたいこの辺を通過した”と考えれば、ほぼ推定通りのコースだと感じた。広域地図でなぞってみると、ほぼ直線コースになる。ただし、柏から北は、かなり迂回しているので、別ルートがあったかもしれない。どちらにしても1300年前の道と思われる所を歩くのは、想像力が必要で大変である。（18回参加／T. Kat）

○古代官道となると1000年以上も前の道なので、いわば想像の世界。いかに想像力をたくましくするかがポイントとなると実感した。主催者に、つい昨日のこのように熱っぽく古代の状況を説明されると、そんな気がしてくるから不思議だ。おかげで、直線道や地形などからなんとなく古代官道というものがわかってきたような気がした。

（16回参加／J. Nag）

○武蔵、下総、常陸の国府は、その位置がはっきりしているのに対し、相模国府は諸説あることに違和感を覚えた。通して歩くと、国府が置かれた地点の地形的共通性が見出せるかもしれない。それにしても、よく歩いたものだと思う。（16回参加／Y. Kaj）

○今回のシリーズ全体では、都合が悪くて参加できない回が4回あり、そのうち2回分は補完しましたので、全体のうち2区間を未だに歩いておりませんが、歩いた範囲の事を考えても、とても興味深い企画でした。また、色々と学ぶ事もあって、良かったと思います。番外編の武蔵野バスツアーについては、若干のお手伝いできたことも思い出深いところではあります。（16回参加／K. Takn）

○20回中13回参加しました。みんなとわいわい語りながら歩けるところが楽しかったように思います。特に国境の峠越えや川を渡る道筋は古代官道のロマンを感じました。しかし、江戸時代の旧街道に比べ、黙々と歩かなければならない推定の道も多く、マニアックな感はぬぐえませんでした。（13回参加／M. Hur）

○農地や山林が続く部分には古代道らしさを感じさせる箇所が多くありました。でも、河川を渡る箇所以外ではほとんど起伏の無い道は、古代の旅人に単調さを感じさせたのではないのでしょうか。目印としての山がほとんどない関東平野のさびしさでしょうか。（11回参加／S. Kit）

○なんと言っても、国府と国府を結ぶ広幅員の直線道路だったことが確認できたのが面白かったです。律令制度の国力が及んでいた時期の高速道路なので、国力が衰えてくるとだんだん使われなくなり、終いには跡形も無くなってしまった部分もある。一方で、その地域の地形の制約と人々の生活実情に合っていたため、現代においても、およそ当時の位置のままの道路と判断できる部分もある。そんなところに、歴史の重みや都市のあり方を考えることができ、大変勉強になり感心し続けました。（11回参加／T. Sim）

○古代の直線路の痕跡が、町なかでもまだ残っていることが意外でした。（7回参加／J. Yam）

○布佐（第12回）からの参加でしたが、古代ルートが現代の幹線道路（国道6号）とかなり外れているというのを実感できて良かったです。一方、利根川を渡る部分は江戸時代初期の水戸街道の元になっていたようで、歴史と



★海老名市国分南の瓢箪塚公園（2008.1 番外編）



★多摩・川崎市境のよこやまの道（2008.3 第3回）

いうものを感じました。(6回参加/K. Yab)

○私が歩いた区間は、武蔵野の台地～荒川・江戸川の低地への境界部分であったこともあり、それぞれの街の景色から雰囲気に至るまで変化に富み、非常に楽しめました。また、住んでいる街を通ったこともあり、自分の生活と古代東海道時代の雰囲気をシンクロさせることができたような気がします。(5回参加/K. Sai)

○昨年4月の番外編からというマニアックなコースの街道デビューをしました。前日「12キロ位歩くから」とさらりと言われ、慌てて靴を買いに行き、靴ずれと足の疲れで何となく歩きながらも、次回、そのまた次回と何となく(というか自動的に)参加させていただきましたが、街中を歩くよりも普段歩かないカエルが沢山いる道や一面の田畑、広い道を歩く方が楽しかったです。最終回の石岡の街をゆっくり見られなかったのが残念でした。12月に歩いた時が一番楽しかったです。何も知識なく、時に大遅刻して皆さんをお待たせたり、どこかで何かやらかすともない参加者だったことは自覚しております。大変ご迷惑おかけしました。写真撮ってばかりでしたが、だんだん自分の目で眺めることが増えた気がします。(5回参加/M. Has)

○途中から参加したのですが、最後まで連続歩くことができて感激しています。(5回参加/A. Ter)

○古代の道筋が、現在の大東京の町並みの中に残っていることに感動しました。(4回参加/H. Yag)

○私は最後の方をちょこっと参加しただけなのですが、やはり最初から歩いてみたかったというのが正直な感想です。ものすごい達成感があるのでしょうか。(4回参加/T. Hir)

○皆さんの熱心な活動にいつも感心しています。職場と家庭状況から、ここ2年ほど参加できませんでした。しかし、皆さんの活動報告は強い感心を持って読ませていただいております。2年間の行程、本当にお疲れ様でした。人事異動等、状況が変わりましたら、是非また参加したいと思います。(2回参加/K. Takh)

○最終回のみ参加でしたが、歴史に触れ、古に想いを馳せ、充実したひとときを過ごすことができて大満足です。要所要所で臨機応変にいろいろな方が説明をしてくださるのも、良かったと思います。(1回参加/k. Sat)

○2年かけて関東平野を縦断し、ようやくの踏破ですね。相模国府で発掘調査現場を横目にスタートし、初詣で賑わう寒川神社に参拝した後、遠くの雄姿大山をくっきりと眺めたのも、はるか昔のような気がします。私自身は、武蔵国府から下総国府までを担当しましたが、途中で名古屋に転勤し、下総国を経て常陸国に入る頃、筑波勤務で戻ってくるという数奇な巡り合わせでした。最後は、大山に代わって筑波山を眺めてのゴールでした。なお、4回の番外編も(海老名への別ルート検証、補遺編：武蔵野バスツアー、布施への別ルート検証、石岡古道遺構など)、それぞれに捨てがたい味があり、企画に彩りを添えて楽しかったです。参加された大勢のみなさん、お疲れさまでした！(19回参加/R. Ota)



★三鷹市大沢の近藤勇旧宅付近 (2008.5 第5回)



★市川市真間の弘法寺 (2009.1 第9回)

●全体を通じて、特に印象に残った場所、道筋など

○古代を感じさせる遺跡として、印象に残ったものとしては、次のものが挙げられる。

天禄年間(972年頃)建立の小野神社、防人見返りの峠、西暦111年創祀の大國魂神社、我々が歩いた6日前に一般公開されたばかりの武蔵国国衙跡の復元展示、豊島郡衙跡と平塚神社、立石様、市川の真間の継橋と手児奈(てこな)の伝説、下総国府・国府台(こうのだい)、茜津駅比定地、宇多天皇勅願所廣幡八幡宮、日秀(ひびり)の湖北高校にある相馬郡衙の遺跡とその付近の将門神社・将門の井戸・かまくら道、蛟(こう)もう(虫編に網の旁)神社、別経路の茜津(あかねつ)駅推定地、布施弁天、上高津貝塚とその横の縄文の森、穴塚の坂下の平安時代創建の般若寺、常陸総社宮と常陸国府跡。

○古代官道を連想させる道として、特に印象に残った道は、次のとおり。

防人見返りの峠の情緒ある道、柏市関場町から東までの見事に真っ直ぐな道、龍ヶ崎～江戸崎間の緑陰の道3箇所、奥野開拓の飛行機の上からも見えるというどこまでも真っ直ぐな道、陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地付近から常磐線の摩利山踏切までの阿見町土浦市境の見事に真っ直ぐな道、上高津貝塚横の縄文の森を縫う道。

○防人見返りの峠、特に古い神社（寒川の寒川神社、府中の大國魂神社、上中里の平塚神社、利根町のこうもう神社、石岡の総社神社）、直線道（相模原市大野、人見街道、江戸崎、阿見）、利根川渡河地点。

○平塚をスタートした直後の湘南銀河大橋から見た富士山は、1月下旬ということで冠雪して白く輝いており、晴天の青い空に映えて、非常に美しく感じました。

○月並みですが、初回の道中で見えた富士山は印象的でした。

○相模川の湘南銀河大橋からの富士山の眺め：大きな富士山が間近に見え、とても雄大な眺めでした。

○寒川神社から北への道：新幹線を挟んで、神社境内横の路地、畑と公園の間の通路など、直線道の痕跡が今も残って通れるのに感激した。

○川崎・多摩市境の「よこやまの道」：多摩ニュータウンを眼下に見下ろす丘陵の尾根に一筋の古道が残り、今も散策できるのがすばらしい。防人見返りの峠には、涙した。

○よこやまの道：別所から尾根を登って目の前に開ける多摩ニュータウン。

○最も標高の高かった神奈川県と東京都の境の尾根道（よこやまの道）で、視界が開けると多摩ニュータウンが眼下に広がっていたのが印象的でした。

○武蔵府中と国衙跡：大國魂神社の参道、国衙を復元した史跡公園、天を衝くような櫓並木など風格十分であった。

○府中の櫓並木：巨木の並木が残され、長い間大切にされてきていることが素晴らしい。

○三鷹市内の人見街道：近藤神社、水車公園、鷹場標石、そして櫓並木と、風情ある道筋が続いていた。

○三鷹市役所の先で幹線道路の裏道に残る古代東海道。

○江古田学生街のカフェ：路地奥の手作り風のカフェが70年代の学生街のようで、ついつい長居してしまった。

○千川から三ノ輪への踏切群：東上線大山、埼京線板橋、都電西ヶ原、常磐貨物線日暮里と、旧街道がいくつもの踏切を渡るのが印象深かった。町と鉄道が近いのだ。

○豊島城址の平塚神社の周辺の雰囲気印象に残っています。

○低地の景観としては、白髭東防災拠点の圧巻な設備類と対照的な白髭西防災拠点が印象に残っています。

○三ノ輪から白髭へ：三ノ輪浄閑寺、千住回向院、汐入胡禄神社など、消え去った歴史の部分がふとよみがえってくるような特異な土地柄であった。（矢作さんの写真、福田さんのブログで、街を多面的にえぐり取ることができた）

○四ツ木、立石、小岩の直線道：下総国府を目指す一直線の古代道が現代の下町に残っているのが奇跡的。立石で安藤さんの知人のお話を聞き、立石様などを案内いただいたし、庶民的な打ち上げ場所も良かった。

○街中で一番直進性を感じたのは、白髭防災拠点を越えて、鐘が淵、立石、奥戸、小岩を経て江戸川までの道筋で、夕闇に市川国府台を対岸に見た時、古代人もここに立って下総国府を眺めたのかと思いを馳せることができました。

○市川から常盤平までの道筋：かねてより地形図上で目を付けていた推定路をようやく歩くことができ、古道であると感じ取れたのが何より感無量であった。

○布施弁天（東海寺）：現代では街中から遠くはずれた辺鄙なところ（失礼）に、あんな立派な由緒あるものがあつたなんて、びっくりでした。



★利根町立木付近の旧家生垣（2009.4 第13回）



★石岡市高浜の町並み（2009.10 番外編）

○竜ヶ崎：低地の中に竜の頭のように突き出た半島。

○竜ヶ崎から江戸崎へ：丘あり田圃ありの多彩な地形で、最後に林を抜けると突然、ポティロンの森に出て驚いた。

○竜ヶ崎からポティロンの森へ：田圃の中の真直ぐな道。丘を越える切り通し。特に丘の上の流通経済大学のサッカー場裏では町の境界の杭が畑の中を突っ切って北の方に続いていて、古代の道は行政の境界として現代も生き続けているということを実感しました。

○かすみがうら市の天の川付近（土浦～石岡の間）。

○石岡（府中宿）の街並み：街並み整備が進み、見違えるように美しくなっていた。観光地化せずに今までの商売を続けており、成功すれば全国の手本になりそう。

○（番外）石岡・高浜間の古代道路遺構：発掘中に断面を見られて良かった。懸案だった高浜の街並みも再び歩き、すばらしい資産が朽ちていきそうで、とても複雑な気持ちになった。

○（番外）長澤さんの寄贈した鎌倉街道銘板：すばらしい。後世の古道解説書に名前が残りそうで、うらやましい！

○その土地にある神社の狛犬（様々な種類がありました）、地域の特徴がすぐわかるマンホール、史跡ではないけれど歩いてみたくなる横道。

○国府の置かれた位置に興味を持ちました。相模国府、武蔵国府、下総国府、常陸国府のすべてが、広い川の崖線の上で、平安の都を川越しに見渡す位置にあるということです。それぞれ、昔のもっと河川幅が広がった時代の相模川、多摩川、江戸川、恋瀬川によって造られた崖の上にあるんですね。やはり、平安の都の方角を見通せることに色々な利点があったということなんでしょうか。他の国府も同じような位置関係にあるのでしょうか。

○各地の直線路は、古代官道を思い起こせる。それが市街地であろうと農村部であろうと、失われた区間はあるものの、残っていることに感動する。掘り返してみたいものだ。手前味噌だが、下総～常陸のルートは、かなり面白かった。ポティロンの森からの直線路など感動ものであり、それを発見した大竹さんに今更ながら敬意を表します。

○古代街道は、直線性がありかつ12m程度とかなり広い道幅であるとのことですが、そのようなことを想像させる道がいくつもありました。先日、TV番組でも古代官道の跡を雨上がりに上空から観測すると、側溝部分の窪みとの関係で埋もれている道が見えるとの説明があり、その直線性は現実のものでありました。この度歩いてきた色々な箇所でも、どの道が正しいのかと言うことがメールで飛び交っていますが、何故このような幅の広い道が埋もれてしまったのかということがやはり疑問です。非常に便利であったはずなので、何時の時代においても主要な道として活用できたのではないかと思えるのですが。

●今後の企画への希望があれば……

○過去に行った中で特に人気が高かったところへ行ってみたい。基礎的なことを学べる講習会のようなことを催していただけたら嬉しいです。

○やはり今も旧街道の面影が残っている江戸時代の旧道（明治、大正の経済道でも可）が、歩いていて楽しいと思います。古代官道はやはりかなりマニアックです。

○もう少し時代を下って、私のような勉強不足の輩でも少しは馴染みのある江戸時代あたりの道はどうですか。

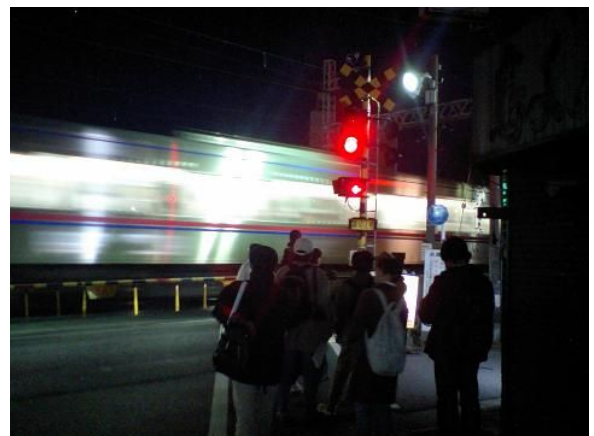
○租庸調や防人が歩いた道を歩いてみたい。

○古代東海道別ルート：今回のシリーズ途中で問題提起した常盤平～布施～板橋～谷田部～上高津のコースを一度歩いて比較検証したいですね。布施までは歩いているので、利根川から先をぜひ！

○古代東海道鹿嶋路：石岡・高浜間で発掘された道筋を常陸国府から鹿島神宮まで歩いてみたいですね。道筋は今でも残る明瞭な尾根道です。（その先、香取神宮から成田経由で上総国府へも）

○古代東山道武蔵路：西国分寺で見学した道路遺構を辿りましょう。武蔵府中～国分寺～所沢～堀兼～狭山・・・武蔵野の奥深く歩み入りたいですね。

○東京街道：青梅街道のオプションで原江戸道（江戸街道）を歩きましたが、東京街道もいつか歩きたいと思っていました。百街道一歩氏のページに投稿があったように、東京街道から岩蔵街道に続くという成木往還を歩くのもいいのでは。それから、梶川氏提案の所沢街道も。



★葛飾区北小岩の京成線踏切（2008.12 第8回）